

美しくなつかしい、日本をのせて。

# Cradle

[クレードル] 出羽庄内地域文化情報誌

7

2019 July/August  
TAKE FREE  
NO.54

特集  
鳥海山・  
飛鳥ジオパーク  
庄内憧憬  
松平定知  
元NHKアナウンサー



Cradle 7

美しくなつかしい、日本をのせて。  
「クレードル」 出羽庄内地域文化情報誌

2019 July/August  
令和元年7月1日発行(隔月奇数月発行)第9巻8号(通巻54号)

発行 / Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15(株)株式会社 出羽庄内地域デザイン 電話0236(64)0888  
制作 / Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3「コアック・コンピュータセンター」 電話0234(41)0012

FIDEA GROUP



遊佐町 丸池様

清冽な鳥海の恵みたたえる 神秘の池

 庄内銀行

『蟬しぐれ』の一節を、私は海坂城下の町を吹き抜ける北風の音を意識しながら、いつでも暗誦することができる。

## 藤沢周平さんの風景

### 松平定知

「五間川の川岸では、青草のいろが一日一日と濃さを増し、春の到来は疑いがなかったが、その季節の流れを突然に断ち切るように、日は終日灰いろの雲に隠れ、城下の町々をつめたい北風が吹きぬける日があった」。例えば『蟬しぐれ』の中のこの一節を、私は海坂城下の町を吹き抜ける、その北風の音を耳のどこかで意識しながら、いつでもどこでも何回でも、暗誦することができる。それは、藤沢作品朗読をライフワークにしている私が、この部分を何回も何回も音読したからでもあるのだが、しかし、そんなことより何よりも、そんなことができるのも、それが「藤沢作品だから」に他ならない。こんなことを申すのもおこがましいが、言葉の選択、語順、リズム……。その情景そのままに臉の裏にその映像を結ぶことができる——。これは藤沢周平ワールドの魔力という他はない。

鶴ヶ岡城、松ヶ岡開墾場、致道館、文学館（藤沢周平記念館）、湯野浜温泉などでの、藤沢周平さんの絡みの朗読会や講演会やCS放送番組出演などのために、私は庄内にはすべての季節にお邪魔させていただいている。

1月26日の藤沢周平さんの命日に合わせて行われてきた「寒梅忌」は今年が最後と聞いて、私は5年ぶりに参加した。日本全国の同好の士と周平作品を肴に歓談できるのは、寒梅忌ならではの心弾む趣向である。「この時期の寒梅忌は今年が最後」というのは、全国の同好の士がもつと集いやすい季節に、ということに起因するらしい。確かに、私の2回の経験で申しても、前回は、帰途、横殴りの強い雪で、庄内空港ではらはらしながら相当長い時間待ったし、今回も朝方まで降っていた雪まじりの雨と強風で、飛行機が飛ぶのかどうか、ぎりぎりまではっきりしなかった。



「寒梅忌」(2019年1月27日、鶴岡市中央公民館)  
写真提供=鶴岡藤沢周平文学愛好会

だから毎年毎年の、主催の方々の気の揉みようは尋常ではない。「命日当日に集まるからこそ意味がある」という声もわからぬではないが、ここはやはり、全国のファンが集まりやすいことが優先されるべきかもしれない。だから私は、「寒梅忌」の開催時期にはこだわらない。根雪が溶けるタイミングもいいし、桜が一斉に開花する時期もいい。薫風の中の、眩しい青葉の時もいい。でも「私的」には、冒頭に記した、「春の到来は疑いがなしい」という「安心感」の中で、庄内らしい「町々を吹きぬける北風の音」が聞けるあたりの日がいいかなあ、と漠然と思っている。でも、正直申して、いつでもいい。藤沢さんを偲ぶ機会がなくならなければ、それで十分。

まつだいら・さだとも/京都造形芸術大学教授。元NHK理事待遇アナウンサー。1969年NHKに入局。「連想ゲーム」の番組司会を経て、「朝のニュースワイド」「19時ニュース」などのキャスターを長く務める。「NHKスペシャル」では100本以上の番組を担当。2007年に退職後も「その時歴史が動いた」の司会や「ラジオ深夜便・藤沢周平作品朗読」などに出演。2016年にはTBSドラマ「下町ロケット」のナレーションで好評を博す。アナウンサー業の功績を称え、NHK会長賞、菊池寛賞、前島密賞、イタリヤ・ニンメンダトレ勲章を受賞。著作に「歴史を「本」に「動かした戦国武将」「心を豊かにする言葉術」「謀る力」(いずれも小学館新書)、『松平定知朗読「サラ」』が選んだ名作集(CD全5集・小学館)ほか。

「ジオパーク」って？  
「ジオ＝地球、大地」と「パーク＝公園」を組み合わせた「大地の公園」を意味します。2000年頃にヨーロッパで始まった活動で「保護・保全」「教育」「地域づくり」を一つに結んで地球を学び、楽しむ場所として、世界各地に広がりを見せています。

取材協力・写真提供／鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会  
参考資料／林信太郎監修・著「知っておきたい日本の火山図鑑」(小峰書店)、「鳥海山・飛島ジオパークガイドブック」(鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会発行)

## 特集

# 鳥海山・飛島ジオパーク

「大地の公園」を意味するジオパーク。ここでは、山や川や海といった自然から、生きとし生ける植物や生物、人間まで地球に存在するあらゆるものが主役です。  
鳥海山・飛島ジオパークに、ふれて、楽しんで、好きになって、  
壮大な地球の時間旅行へのトビラを開けてみませんか。



# 鳥海山、飛島 大地のストーリー

海と山に囲まれ、豊かな自然と食に恵まれた庄内地方。鳥海山・飛島ジオパークは、私たちの当たり前のようにある暮らしが、この大地があるからこそ成り立っていると気づかせてくれます。「キッチン火山学」の第一人者として知られる火山学者の林信太郎先生に、鳥海山と飛島をはじめとする庄内の成り立ちについて伺いました。

特集  
鳥海山・飛島  
ジオパーク

time  
scale

日本海の形成から  
現代まで。  
私たちが今いる場所は  
どのようにつくられて  
きたのでしょうか。

庄内平野を秀麗な姿で見下ろす鳥海山と、山形県唯一の島、飛島。どちらも同じ火山でありながら、その特徴はまったく違うと林先生は話します。「飛島は鳥海山よりはるか昔にできた古い火山で、飛島が噴火活動をしていた頃、鳥海山は影も形もなかったのです」。日本列島がほとんど海だった時代、海底では火山活動が活発に行われていました。飛島はその時代にできた海底火山です。東西から強い圧縮を受けて日本列島が隆起すると、飛島も山頂部分が海面に出ました。「飛島はその後、数十万年をかけてゆっくりと隆

起してきました。そのたびに海水に削られた部分が平らになって、今の特徴ある形になっていったのです。飛島とほぼ同時代に海面に隆起し、形成されたのが、庄内の南北に連なる出羽丘陵。「玉簾の滝」には約1500万年前に海底で固まった溶岩が見られます。一方、鳥海山はその出羽丘陵を基盤岩に火山活動が起こりました。数えきれないほど噴火を繰り返して、大量の溶岩を噴出してつくられた鳥海山は、ほぼ溶岩でできています。「一般的に火山は火山灰が山ほど堆積しますが、鳥海山にはあまりありません。頂上付近



火山学者／秋田大学教授  
林 信太郎さん  
北海道生まれ。長年鳥海山を研究する火山学、火山地質学の研究者。小中学校への出前授業も行っている。著書は「世界一おいしい火山の本」など。チョコレートエキスパート、NHK「プラタモリ」案内人。秋田魁新報に「地球の不思議」を連載中。

近まで溶岩でできているため、溶岩と溶岩の間に雪が残ってできる雪形がかなり上まで現れます。こういう火山は本当にめずらしく、残雪風景の美しさは日本一だと思います」。

鳥海山のこの成り立ちには豊かな湧水ももたらしました。溶岩の中のため込んだ雪解け水などが長い年月をかけて溶岩の先端から流れ出し、田んぼに活用されるなど、麓の暮



【承認番号】この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平30情使 第72-GISMAP42055号)

平成28年9月に認定された「鳥海山・飛島ジオパーク」は、酒田・飛島・遊佐・にかほ・由利本荘の5つのエリアで構成されています。テーマは「日本海と大地がつくる水と命の循環」。現在、30代後半から84歳まで68名のジオガイドが、ジオパークの見どころや魅力をエリアごとに楽しく、わかりやすく伝える活動を行っています。

らしにさまざまな恩恵を与えているのです。「私は鳥海山・飛島ジオパークの最大の魅力はお酒だと思っています。鳥海山からやってくる豊かなお水と、庄内平野で育つおいしいお米。この2つはお酒造るにあたって、最高の条件ですからね」。「楽しく学んで噴火に備える」をモットーに、各地の小中学校でお菓子の材料を使った火山活動の再現実験をしながら、鳥海山に対する防災意識を高める活動も行っている林先生。そこには、子どもたちに地元の良さを知ってもらいたいという思いもあります。「自分たちの住む地域を、大地の成り立ちから知っている」と、全体の仕組みがわかっている地域の魅力が倍増しますからね。子どもたちにはふるさとに誇りを持って成長してほしいです。地球が誕生して日本列島ができ、長い長い歳月をかけて形成された、この地に暮らす私たち。大地のストーリーに耳を傾ければ、いつもと違う景色が見えてくるに違いありません。

約3000万年前

大陸の縁が東西に引き裂かれ、その裂け目に日本海ができ始める。

約1500万年前

日本海の拡大終了。海底火山が激しく噴火を繰り返す。「玉簾の滝」の溶岩はこの時代のもの。

約300万年前

東西の強い圧縮を受けて海面から日本列島が隆起。「出羽丘陵」が形成される。海の中にあった山々が海上に顔を出し、「飛島」も隆起。その後、海面の上昇や下降、大地の隆起と海水による侵食を繰り返していく。

約60万年前〜16万年前

「鳥海山」の火山活動が始まる（ステージI）。噴火による溶岩の噴出が繰り返され、円すい形の山が形成されていく。

約40万〜16万年前

鳥海山の岩なだれによって、秋田側に「由利原高原」や「桑ノ木台湿原」ができる。

約16万〜2万年前

鳥海山の噴火ステージIIが始まる。御浜（標高1700m）などからの噴火による溶岩は、ステージIの溶岩を覆い尽くして日本海へと運ばれた。

約2万年前

鳥海山の噴火ステージIIIが始まる。

約8000年前

砂の堆積が始まり、鳥海山麓と加茂台地の間に砂州が発達し、「庄内砂丘」が形成される。出羽丘陵と砂丘の間に広がっていた潟湖も陸地化し、「庄内平野」となっていく。

約3000年前以前

鳥海山噴火。猿穴溶岩が日本海まで達し、三崎公園帯を形成する。

約2500年前(紀元前466年)

鳥海山の山体崩壊で秋田側に「流れ山」ができ、「九十九島（くじゅうくしま）」が誕生する。

1148年前(871年)

鳥海山が噴火する。「日本三代実録」に「2匹の大蛇が流れ出し、その後にくさの子蛇がついてきた」と溶岩について記述される。

約300年前

庄内砂丘のクロマツ植林が始まる。

218年前(1801年)

鳥海山が噴火して溶岩ドームができ、新山(山頂)が形成される。この3年後(1804年)に象潟で地震が起こり、海面が隆起。現在の九十九島の景色となる。

45年前(1974年)

鳥海山が噴火し、小規模な火山泥流が数回発生する。

現在



玉簾の滝



飛島



鳥海湖



庄内平野



九十九島

# 海岸に水が湧いているのはなぜ？

ジオパークで地球のふしぎを楽しもう 1

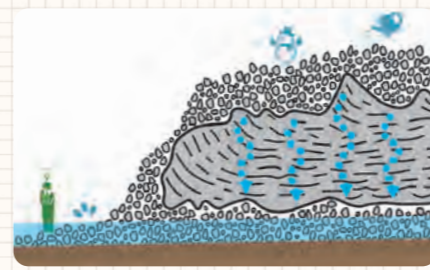
遊佐町の釜磯海岸<sup>かまいそ</sup>は鳥海山麓にある海水浴場。砂浜と岩場の至るところから冷たい真水がポコポコと湧き出す、ひそかな人気スポットです。なぜ海岸に真水が湧くのか、ジオガイドの林晶<sup>あき</sup>さんに教えてもらいました。

「なぜ」に湧き出している？

釜磯海岸のあちこちからポコポコと湧き出ている真水。中には湧くだけ



鳥海山の起伏を示した赤色立体地図は、溶岩が流れた姿がよく分かります。イラストは鳥海山の湧水の仕組み。溶岩のガサガサの部分に水がため込まれ、へりから出てきます。



けでは足らず、砂浜から浸み出しているところもあります。「海の中でもかなり湧き出ている、こういう場所の湧水量としては世界有数といわれています。遊佐町の地下にも水が流れているので昔からたくさん水の自噴井戸があるし、地下水は町の水道水にも使われています」と林さん。豊富な水の源は鳥海山です。鳥海山は「巨大な自然のダム」「スポンジ」と例えられるほど、すき間だらけの溶岩に雨水や雪解け水を蓄えてきました。年月をかけてそれらが地表に現れ、湧水となるのが、溶岩が流れて固まったへり（末端）の部分。釜磯海岸もちようどその部分にあたります。また溶岩のへりに沿って流れる「牛渡川<sup>うしわたがわ</sup>」はほぼ100%が湧水という清流。山側の岸から水が湧き出ているのを見ることが出来ます。

## 湧水がもたらす自然の恵み

「牛渡川には絶滅危惧種のカジカ類や山形県絶滅危惧IB類のイバラトミヨ（トミヨ属淡水型）といった魚がすんでいます。7月には冷たい清流にしか生息しないバイカモの花で水面が埋め尽くされます。牛渡川はそれだけすばらしい環境なんだと思いますね」。牛渡川だけでなく、鳥海山の西麓を流れる月光川水系にもたくさん生の生きものが生息し、秋には鮭がそ上します。さらにその川の水が流れ込む吹浦の海は、海底での湧水と相まって身が肥えた大ぶりの天



ハナカジカ

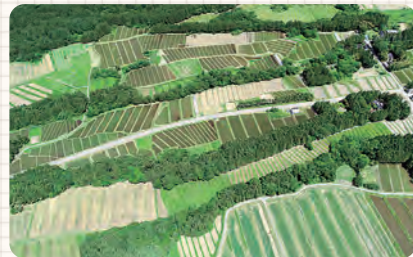


きれいな湧水で、年間を通じて水温が11℃前後に保たれている牛渡川には、バイカモやカジカ類など貴重な動植物が存在します。

然岩ガキを育みます。「この辺りには鮭のふ化場もありますが、それも冷たくて新鮮な水が豊富にあるからです。湧水ははるか昔から多様な生態系を育んできたのです」。

## 巡り巡って人々の暮らしへ

湧き続ける豊富な湧水は、女鹿集<sup>めが</sup>落の共同水場「神泉の水<sup>かみ</sup>」のように、人々の暮らしにも昔から活用されてきました。中腹にある「胴腹滝<sup>どうはらひたき</sup>」もその一つです。「胴腹滝は岩の間から流れ落ちた水がすぐに岩の間にこへ行くかという、地表に出たり入ったりしながら流れ、一部は水路



江戸時代後期に庄内藩によって開発された白井新田。鳥海山の湧水を流す環は今も現役です。



みんなの水

女鹿集落の共同水場「神泉の水」は上から1段目が飲料用、2段目が食材洗い用、3段目と4段目が洗濯用、5段目がおしめ洗い用と、用途別になっています。

を通して田んぼを潤します。また、サクラマスなどを養殖する内水面水産センターでも使われています。人々は昔から湧き続ける水の流れを上手に作りながら、水と共存してきたのです。そう話す林さんは今年5月、しらい自然館でイベントを開催しました。おむすび研究家を迎え、鳥海山の水で育ったお米を鳥海山の水で炊き、おむすびを作るという内容です。「鳥海山の水は湧くだけではなく、いろいろなところにつながっています。そのことを感じてもらえればと思います」。日本海と大地がつくる水と命の循環——。鳥海山の水は暮らしを支え、命をつなぐ地球の大切な恵みなのです。

お答えします

認定ジオガイド 林晶<sup>あき</sup>さん



河北町出身。平成29年に地域おこし協力隊として遊佐町に移住。地域の伝統行事や暮らしに対する興味から自然とジオパークに関心が広がっていったとか。鳥海山屈指の湧水スポット、胴腹滝にて。

特集 鳥海山・飛島ジオパーク

# 庄内のメロンがおいしいのはなぜ？

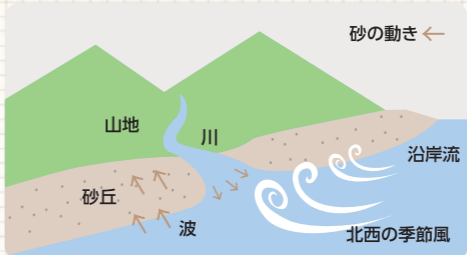
じゅわっと滴る果汁、とろける甘さが夏の暑さを癒やす庄内産メロン。農作物には育った環境が大きく影響しますが、メロンのおいしさの背景には、足元には見えない発見も。自然の摂理に、先人が懸命に向き合い築き上げた、庄内の大地のお話です。

## 「なぜ」の答えは 庄内砂丘にあり

メロンがおいしい理由はズバリ「砂丘地で作られているから」です。



白砂青松の海岸砂防林に守られた庄内砂丘では農業が発達。イチゴやアサツキ、花きなど名産も多数。



寒暖差や日照時間など果物がおいしく育つ理由はさまざまありますが、全国に同じ条件のメロン産地がある中で「庄内砂丘メロン」の栽培は、砂地で水の管理をしやすいたが、メロンの味に好影響を与えています。「浜中周辺は地下5〜10メートルあたりまで掘ると地下水が豊富に出てきます。地上からも地下からも水をコントロールできるのが、ここの地の利でしょうね」と五十嵐和一さん。庄内砂丘ができたのは8千年ほど前から。まだ浅い海（潟湖）だったところに、日本海や最上川などの河川から運ばれた多量の砂が、強い風に吹かれて移動していきます。その砂がだんだんと積もり、南北に約34km、東西幅最大3km、丘の高さ約70mの大砂丘となりました。その面積は鳥取砂丘より広いにもかかわらず、なぜか砂の姿はほとんど見えず、



## パッチワーク風

庄内砂丘を空から眺めると、クロマツ林と畑がモザイク模様を描いてパッチワークのよう。この景色、宇宙からも見るとか!?

ません。「私は『東北人のような奥ゆかしい砂丘』と呼んでいます(笑)。庄内砂丘は人々が生活を営むために築いた、見えない砂丘なんです」。

## 不毛の地から豊穡へ 植林史のスペクタクル

かつて庄内砂丘にはブナなどの天然林が広がっていました。しかし、製塩の燃料などのために乱伐され、江戸時代には草木も生えない不毛の地に。遮るものなくなった砂丘では、海から季節風が吹くたび砂が舞い飛び、海岸沿いの家や畑、川も砂に埋もれて、人々の生活を脅かしました。そして今から300年ほど前、

## おいしい庄内育ち



庄内砂丘の特産品には、メロンのほかに山形県オリジナル品種イチゴ「おとめ心」も。庄内平野では、鳥海山系の川の恵みで肥沃な土壌に育つ「刈屋梨」が有名。



おとめ心



のほかにイチゴやアサツキ、そのほか多くの野菜や花が1年中栽培されています。私たちの足元に砂は見えませんが、空から庄内砂丘を見ると、クロマツ林と畑が、きれいなモザイク模様を描いているんですよ」。

## 足もとに見えざる砂から 広がるジオストーリー

五十嵐さんと一緒に向かった「飯森山」も庄内砂丘の一部です。1800年代の地震で崩れ、昔よりも低くなったといわれますが、その山頂からは酒田の街を見下ろすことができます。「山あり平野あり、海あり川あり、砂丘あり。これだけそろっている地域は多くありません。しかもそれらは車で30分ほどで行けるくらい身近にあります。ジオパークの面白さは、砂丘の一粒の砂粒から、庄内の風景が作られてきた長い時間まで、物語が広がることですね」。

お答えします

認定ジオガイド 五十嵐和一さん



五十嵐さんは地形・地質からグルメ情報まで網羅する人気ガイド。酒田市理科教育センター指導専門員として、子どもたちに理科の楽しさを教えています。写真は「砂だけでできた山」飯森山の山頂。

酒田中興の祖・本間家三代、本間光丘をはじめとする人々が、飛砂を防ぐクロマツの植林事業に着手。長い歳月を重ね、今では庄内海岸防炎林の美しい景観が広がっています。「植林によって飛砂と潮風を免れた庄内平野では、農業が大きく発展しました。広い平野に川から常に新鮮で栄養分の高い土が運ばれて、おいしい『庄内米』が育っています。砂防林が連なる庄内砂丘では、メロン



昔は大きな潟湖だった庄内平野。海岸林によって国内有数の穀倉地帯に発展しました。

特集 鳥海山・飛島ジオパーク

# 飛鳥が平らなのはなぜ？

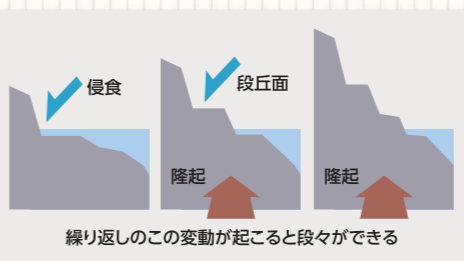
「飛鳥は鳥海山のでっぺんが飛んでできた」という言い伝えも今は昔。飛鳥は海の中に南北に延びる山の高まりのでっぺんにあたります。飛鳥の岩々も動植物も個性豊かで、ここにしかない不思議と、地球の多様性にふれることができる場所です。

## 平らな島の東と西

日本海ができた頃、海底では火山が噴火を繰り返して、噴出物や溶岩が海の中の山々に積もっていききました。



飛鳥の北端「渚の鐘」からは、西海岸の海食台や海成段丘などを一望。浜辺には、海底火山から噴出したいろいろな形や色の石が見られます。



繰り返しのこの変動が起こると段々ができる

後に海底が盛り上がり、海底山地の高いところが海の上に顔を出したのが飛鳥です。陸地になってからも、島は波に削られ、再び盛り上がってはまた削られて、平らな形になりました。「定期船が発着する東海岸には家が並んでいますが、西海岸に行くと平らな面が段々になった『海成段丘』を見ることが出来ます。一段一段が隆起と浸食を繰り返した跡です」と渡部進さん。

飛鳥には自然の力でできた地形が、あらわになって点在しています。島に着くと左に見える「館岩」から、海岸遊歩道を西海岸へ。この一帯の風景はおよそ1000万年前の溶岩でできています。「面白い形のマンモス岩やロウソク岩、浜辺に広がる浅瀬の海食台、20mほどもある海食崖、どれも火山活動と海的作用でできた地形です」。

## ふしぎアイランド!



酒田港から北西に約39km沖にある飛鳥。平均標高50m、周囲10.2kmの小さな島に、壮大な大地の物語が息づいています。

## 北の島に南の花咲く 海岸沿いを花巡り

岩々の景観に並んで、海岸沿いには春から夏にかけてさまざまな海浜植物が咲きます。カノコソウ、ハマナス、ハマエンドウ、島の人「イワユリ」と呼ぶスカシユリ、そして飛鳥と佐渡島だけに咲く「トビシマカンゾウ」。「荒崎に群生するトビシマカンゾウは海から吹く風にも乾燥にも強い花です。昔、人が草木を生活資源にしていた頃はもっと咲いていましたが、近年は自然の利用も変わって数が減っていたんです。そこで今春に草刈ったところ、どんど

## かたちいろいろ



島の周りには鳥帽子群島や二俣島では、溶岩が冷えて固まる時に収縮してできる割れ目「柱状節理(ちゅうじょうせつり)」が見られます。御積島を含む遊覧には島内の漁船が対応しています。



んとトビシマカンゾウが芽を出し始めました。カンゾウが咲く島に復活させたいと、保全活動に取り組んでいます」。

## 海と共に生きる 漁民の島

トビシマカンゾウとスカシユリが咲く荒崎からは、「御積島」と「鳥帽子群島」が見えます。島の周囲に

は大小いくつかの小島が点在していますが、御積島は古来、海の神様である龍神がすむと伝えられ、漁業を生業とする島民や、日本海を往来する北前船の船乗りたちの篤い信仰を集めてきました。御積島も海底火山から噴出した溶岩の島で、波に削られた海食洞があり、その内部は黄金色のうろこのような岩壁が広がる神秘的な島です。「龍は雲を呼んで雨を降らせる。雨が降るとイカがとれる、という言い伝えがあったようです。この島では、ジオと自然と人の暮らしがつながりあった営みが昔から続いてきたんですね」。

潮や風の匂い、波の音、小鳥のさえずり、きれいな花、岩のぬくもり、漁民たちの暮らし。渡部さんは子どもたちをガイドする機会も多く、「自分の故郷にはこんなにもいいものがいっぱいあるんだと語れるようになってほしい」と話します。「大地の多様性を感じる不思議の島」、そこは長い長い地球の歴史が、今と地続きであることを知る、そんな面白さに満ちています。



島内のいくつかの神社にはイカと鯉の彫り物が。「いかに来い」の豊漁祈願です。

## 特集 鳥海山・飛鳥 ジオパーク

お答えします



酒田市観光ガイド、六十里越街道の山船頭人でもある渡部さん。飛鳥の西海岸、トビシマカンゾウが咲く荒崎にて。

# 地球の記憶を映す ジオパークにTouch!

鳥海山・飛島ジオパークは他にも見どころがたくさん!  
認定ジオガイドの大野木佳代子さんと佐藤りつさんにお二人のおすすめスポットを教えてくださいました。



**館岩 (たていわ)**  
NHK「プラタモリ」のロケでタモリさんが大興奮したという館岩の流紋岩! 館岩は波風から船を守る天然の良港をつくる役目をしました。



**八幡崎の岩脈**  
島の北側にある八幡崎には、マグマが岩を貫いて固まった巨大な岩脈があります。その姿から林先生は「ゴジラのしっぽ」と命名。



トビシマカンゾウ

**飛島の海食台**  
飛島の西海岸には、波に削られて真っ平らになった海食台が広がっています。大野木さんはちょうど引き潮で海食台を見渡せる時に案内し、とても喜ばれたそう。



**十六羅漢岩**  
日本海まで流れた鳥海山の溶岩。その岩壁には海上安全などを願って彫られた仏像が数多く見られます。春から初夏にかけて海岸に続く斜面は海浜植物の植物園のようになります。



**産直たわわ内  
ヨーグルト直売所**  
酒田市法連寺字茅針谷地130-3  
問 / 0234-61-1877  
営 / 9:00~18:00

## 生イチゴ ヨーグルトシェイク

「鳥海高原ヨーグルト」といちごのキュンと甘酸っぱい組み合わせ。8月頃までの季節限定です。



**鳥海高原  
ソフトクリーム**  
“超濃厚”でクリーミー。遠方からわざわざ食べにくる人もいるご当地ソフト。

ジオグルメを  
紹介します。



## とびうお 焼き干しだしアイス

飛島名物・とびうおを使った珍しいアイス。焼き干しだしが練りこまれたアイスは、ほんのりだしの香りがする旨味とコクのある味わいです。



今年、飛島に行く途中、生まれて初めて海を泳ぐたぐさんのイルカを見ました!

## 勝浦港

館岩からみた飛島の勝浦港。かつては酒田の風待ち港として年間500隻を超える北前船が寄港した時代もあったとか。



## 認定ジオガイド 大野木佳代子さん

酒田エリアと飛島エリアで認定を受けたジオガイド。子どもたちが大きくなった時に「庄内って面白い」と言ってもらえるように、魅力をたくさん伝えていきたい、と話します。



©池田克彦



©池田克彦



©池田克彦

## 鶴間池 (つるまいけ)

鳥海山の標高約800mにある鶴間池は、鳥海山の地すべりでできた池。周辺には断崖や平地に森が広がり、イヌワシの活動域になっています。



## 元町湧水群と八ツ面川

遊佐町の自噴井戸をめぐる湧水散歩コース。遊佐駅をスタートに映画「おくりびと」のロケ地で折り返して駅に戻るまで、10ヶ所以上の自噴ポイントがあります。



## 胴腹滝

ひっきりなしに水を汲みにくる人が訪れる人気の湧水スポット。溶岩の間を通過してきた水が、2つの割れ目から滝のように勢よく湧き出しています。



## 丸池様 (まるいけさま)

池そのものが御神体となっている丸池様はエメラルド色の池。11℃前後の冷たい鳥海山の湧水が少しずつ入れ替わっているため、池に沈んだ倒木が朽ちることなく残っています。

湧水の郷にようこそ!



## 認定ジオガイド 佐藤りつさん

遊佐・酒田・飛島・にかほエリアで認定を受けたジオガイド。地域への興味から活動を開始し、「案内を聞いて、見て、ふれて、楽しんでいただけるのが一番です」と佐藤さん。

## 八森自然公園の山野草

出羽丘陵の森にある八森公園は、山野草の隠れた人気スポット。遊歩道を散策すれば、季節ごとにさまざまな山野草を見ることができます。



## 道の駅鳥海ふらっと

遊佐町菅里字菅野308-1  
問 / 0234-71-7222  
営 / 9:00~18:00  
(11月~2月は17:00まで)  
<元気な浜店> 9:00~17:30  
<食堂「ふらっと」> 10:00~18:00  
※各店舗とも季節によって変更あり



私の大好き物を見!

## しまかへ

酒田市飛島字勝浦乙177  
(定期船を下りて右手すぐ)  
営 / 4月28日~9月下旬  
10:00~16:00 (1航海の時は14:00まで)  
18:00~21:00  
不定休



## 天然岩ガキ

身が肥えてクリーミーな岩ガキはジオの恵みの代表格。ついもう一つ手が伸びる庄内浜の夏の旬味。  
※鮮魚直売所「元気な浜店」で販売

## 遊佐カレー

“鳥海山の恵みをいただく”遊佐カレーのルゥを独自に仕上げ、三元豚のメンチカツをどんと乗せた、リッチな大人の甘口カレー。  
※食堂「ふらっと」メニュー





## ベーカリー工房ほっほの 鳥海山メロンパン

夏は岩ガキ目当ての人々で  
大いににぎわう道の駅鳥海ふらっと  
その敷地内にある直営のパン屋さんで  
おもしろご当地パンを発見!

雄大な鳥海山が目前に迫る遊佐町の道の駅に、高さ13センチほどの小さな鳥海山がある。構想から10年近く。理想の型を探し続け、試作を繰り返して、ようやく2年前に完成したというベーカリー工房ほっほの「鳥海山メロンパン」だ。

メロンパンといえば、パン生地の上にビスケット生地を乗せて焼いたものだが、こちらのメロンパンはそのビスケット生地が実に鳥海山らしさを表現している。ゴツゴツとした山肌にかじりつけば、中にはふわふわのパン生地が。鳥海山の湧水の仕組みについて専門家は、「鳥海山の山体は水をたくさん蓄えるスポンジと同じ」と話す。この柔らかさはまさにそれなのか。ならば、パンの奥に潜んでいるほの甘いカスタードクリームは、今なお活火山として活動している鳥海山のマグマといったところか。そんな中でも、鳥海山らしさを醸し出している筆頭は、表面にくっついた「種まきじいさん」であろう。地元以外の人にとっては「なぜここにこんなものが？」と思うだろうが、庄内人にとってはおなじみの、種まきシーズンになると雪が溶けて中腹に現れるアレである。最近では「種まきばあさん」なる雪形も話題になっているが、米どころ庄内の稲作を見守り続けてきたじいさんこそが、やはり鳥海山のシンボルなのだ。

それにしてもこのパン屋、他にもご当地パンがあるなどなかなかユニークで、昨年12月にはユネスコ無形文化遺産登録を記念した「アマハゲパン」も登場した。焼きたてパンのイメージと言葉にした時の温かさから「ほっほ」と名付けたというお店は、確かに顔と心をほっこりさせる。



遊佐産のエゴマを使った「エゴマクロワッサン」(右)と「遊佐カレーパン」(中)は通年販売のご当地パン。「アマハゲパン」は期間限定商品です。「コロコロパン」(左)は季節に合わせて内容が変わる土日限定の人気パン(平日は要予約)。他にも店舗には常時30種類ほどの個性的なパンが並びます。営業時間/9:00~18:00(11月~2月は17:00閉店)  
道の駅 鳥海 ぶらっと ☎0234-71-7222

(取材・文 長谷川結)



二ノ滝

# 新樹光降り注ぐ 一ノ滝、二ノ滝 溪谷を歩く

朝から肌を刺すような日差しに  
いつになく夏の訪れが早いと感じた。  
天色あまいろの空に鳥海山の雪溪が浮き上がる。

季語  
新樹光  
(しんじゆこう)  
初夏、新緑の樹木から  
差し込む光。

ざぶざぶと青葉に眼洗はるる

—松原弘子

鳥海山の南麓、遊佐町月光川の上流にある二ノ滝溪谷に向かった。この辺りは鳥海山の清らかな水を集めた11もの滝が荘厳な溪谷美を織りなす。一ノ滝駐車場に着くと、にぎやかに鳴く蝉の声に驚く。春蝉であろうか。遊歩道から山毛櫨ぶなの森に入ると、溪谷の底から聞こえる水音に加え、河鹿蛙かしかがえるの音が飮ひたする。路の脇で雪笹こたたまが小さな蕾を膨らませ、新樹光が足元に優しい影を落としていた。

5分ほどで一ノ滝神社に辿り着く。一段と強くゴー、ドーと水音が轟き、階段を降りた目の前に、19メートルの高さから一ノ滝がとめどもなく流れ落ちる。水の振動さえも腹の底まで響く滝怒涛。滝の落口では眩しいほどの光を集めた若葉が風にそよぎ、真っ白な瀑布が翡翠色の滝壺を掻き混ぜる。飛沫で虹が現れ、風



奇形山毛櫨

の強弱で虹の形が変化する。夏蕨が水沫を纏まとって気持ち良さそうに揺れている。

末流も神に倣なまひて瀧たきなせる

—上田五石

瀧水の落つる高さを知らず来る

—香取道夫

一ノ滝神社から二ノ滝までは、溪谷に沿って20分ほど遊歩道を歩く。気づくと蝉の声は消え、水音と、時折聞こえる鳥の声。黒文字の花が枝に揺れ、足元で筆ひで竜胆りんとくが木洩れ日を受けて咲いている。小さな花がなんとも愛おしい。鳥海山の噴火で飛んだと思われる時日を経た大きな花こう岩。岩の上に根を張りそびえる木々。遊歩道から視界が開けたその先に、二条の水飛沫をあげる二ノ滝が現れた。

人に人格があるように、滝にも流身、水が落ちていく姿から滝格があるという。二ノ滝は鳥海山の千畳ヶ原をはじめとする区域の水を源に、豊かな水量を保ちながら、ゴロゴロとした大岩の間を力強く流れそして滝となる。水に触れ、水音に耳を傾け、自然に身をまかせ感性に響くままに滝時間を過ごした。

濃き淡き新樹二ノ滝三ノ滝

—あべ小萩

滝の飛沫を感じその前に身を置くと、安らぎだけではなく、パワーも受け取る。人間の体の6割から7割が水と考えると、山からの脈々とあふれる水に対峙するこの滝時間は、水が持つ大きなエネルギーを感じられる瞬間かもしれない。自分の中にある感性を刺激し、心と体をリセットして生きる力を取り戻したように感じた。



筆竜胆



一ノ滝と虹



溪谷の流れと新樹光